

● 日本先進糖尿病
治療研究会雑誌
編集委員会

委員長

Chief editor

山梨大

小林 哲 郎

副委員長

Associate editor

兵庫医大

難 波 光 義

査読委員

Reviewers

埼玉医大

雨 宮 伸

天理よろづ相談所

石 井 均

愛媛県立中央病院

清 水 一 紀

市立札幌病院

柳 澤 克 之

(50音順)

投稿規定

1. 投稿資格

投稿者は原則として、共著者も含め全員、本研究会会員とする。

2. 内 容

1) 原著、症例報告、短報、報告を主とし、インスリン治療に貢献しうるもので、他誌*に掲載されていないもの、また他誌に投稿中でないものとする。

*他誌とは Index Medicus, 医学中央雑誌などに集録された学術誌、またはこれに準ずるものをいう。上記以外の他誌(含報告書・記録集など)に投稿、掲載済みの論文についてはその旨をあらかじめ明記すること。個々の事例は編集委員会の責任において、その適否を決定する。

2) 症例報告等患者情報の記載のある論文については、患者のプライバシーに十分配慮し、インフォームドコンセントを得た上で投稿し、投稿規定5頁掲載の承諾確認書を編集委員会へ提出する。

3) ヒトを対象とした遺伝子解析研究など、倫理委員会の承認のもとで実施した研究については、そのことを本文中に掲載する。

4) 速報は予報的なものを含めて特に掲載を急ぐ必要のあるものとする。

5) 報告とは、各種の調査報告など、資料として活用できるものとする。

6) 「編集者への手紙」欄をおき、既載の論文に対する質疑、その他、会員の自由な意見交換を主とした原稿を掲載する。

7) 「コラム」(投稿)、「特集」のメディカル欄をおき、最近の発展・問題点を中心とした解説を掲載する。

8) その他、総会および年次集会、など本研究会の行う行事の予報、記録および編集委員会が必要と認めた事項を掲載する。

9) 著作権はすべて本会に属するので、投稿時に承諾確認書を別送すること。

3. 論文の受付・受理および掲載

1) 投稿原稿は図表を含め正1副2部(計3部)を本研究会事務局へ送付すること。その際、投稿規定4頁掲載の承諾確認書を用いて、著書全員の承諾を示す署名を付すこと。

送付先:

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1-1

兵庫医科大学 内科学 糖尿病科内

日本先進糖尿病治療研究会 事務局

難 波 光 義

E-mail:namba-m@hyo-med.ac.jp

TEL: 0798-45-6592 FAX: 0798-45-6593

2) 原稿はパソコン等を使用し、1頁に400(20×20)字になるよう入力し、全体で規定(表参照)に合致すること。

3) 論文掲載の採否は2名以上の審査員の審査結果に基づき編集委員会が決定する。

4) 論文掲載の採択が本研究会から通知されたら、最終原稿(図表以外のすべて)を、ウィンドウズ(ワード)またはテキストファイルデータとして、電子メディア(CD-ROM、MO、スマートメディア等)で本研究会へ送付すること。電子メディアには、使用OS(ウィンドウズ、マッキントッシュ)名とアプリケーションのバージョン名を明記すること。

5) 掲載の順序は原則電子メディア受理の日順に従うが、速報は可能な限り早い号に掲載する。

- 6) 本誌ならびに本学会の採択するインターネットホームページ上に掲載した論文の著作権はすべて本研究会に所属する。
- 7) 本誌に掲載した論文はオンライン化し、本研究会の採択するインターネットホームページ上に掲載することがある。
- 8) 本誌に掲載した論文の無断転載を禁ずる。

4. 論文記載の順序・形式

日本糖尿病学会の「糖尿病」に準ずる。

- 1) タイトルページ:論文題名、ランニングタイトル (25字以内)、著者名、所属機関および所在地、Key words 5個以内を選ぶ。連絡先 (メールアドレスを含む)
- 2) 以後の頁には、和文要約、英文抄録 (症例報告はなくてもよい)、本文、謝辞、文献の順に配列する。
- 3) 原稿にはタイトルページを1頁とし、各頁のナンバーを入れ、和文要約、英文抄録、本文、文献、図・表および図の説明の順で記載する。

5. 和文要約と英文抄録

- 1) 英文抄録は必ずパソコン等 (ダブルスペース) を使用し、著者名に M.D. などの称号はつけない。また、タイトル、著者名 (名を先、姓を後)、所属機関、英文抄録の順序に記載する。なお、症例報告で英文抄録を付けない場合にも英文の題名、著作名、所属機関を記載する。
- 2) 要約、抄録中に略語を用いるときは本文とは別に、初出のときに正式の用語を用い、略語は () に示す。
- 3) 要約および抄録は結論だけでなく、目的、方法、結果などの要旨がよく読みとれる内容のものであること。

6. 本 文

- 1) 原稿は楷書、横書、ひらがなとし、正確に句読点をつけ、緒言、方法、結果、考察の順に記載する。なお、短報等では結果と考察を一つの項としてもよい。
- 2) 医学用語は、「糖尿病学用語集」、日本医学会医学用語委員会編「医学用語辞典」、「内科学用語集」による。
- 3) 論文中たびたび繰り返される用語の代わりに略語を用いてもよいが、抄録、本文とも初出のときに正式の語を用い、その際「(以下○○○と略す)」と断ること。
- 4) 外国語、外国人名、地名は原語のまま印刷体で書く。薬品名は原則として一般名を記し、商品名を用いない。なお固有名詞および文頭にきた語句のみ最初の一字を大文字、他は小文字とする。外国語で一般に日本語化しているものを日本語で表すときはカタカナを用いる。
- 5) 度量衡の単位は本文、図表とも mm, cm, ml, dl, l, pg, ng, μ g, mg, g, kg, N/10 などを用いる。

7. 文 献

- 1) 引用文献は論文と直接関連あるものとどめ、本文中の引用順に末尾に一括し、本文中には文献記載番号を片括弧に入れて肩付きとし、引用箇所記入する。
- 2) 文献の記載形式は、雑誌の場合は、引用番号、著者名 (西暦年号)、論文題名、雑誌名、巻数、最初と最後の頁数の順に、単行本の場合は、引用番号、著者名 (西暦年号)、論文題名、書名、発行所名、発行地、引用頁数の順に書く、その他下記の文献例に従う。
- 3) 著者名、編者名はすべて記載し、外国人名は姓、イニシアルの順とする。
- 4) 誌名を略記する場合には、本邦のものは日本医学図書館協会編：日本医学雑誌略名表、外国のものは Index Medicus 所載のものに従う。
- 5) 英文の文献はワープロ使用のこと。

文献例

- 1) 松本一成, 世羅康徳, 安部恵代, 富永 丹, 三宅清兵衛 (2003) 2型糖尿病における高感度 C-reactive protein 高値の意義—インスリン抵抗性および接着分子 E-セレクトインとの関連性, 糖尿病 46: 1-5
- 2) 馬場茂明 (2003) レクチュア 1: 文明と糖尿病治療—過去・現在・未来 “糖尿病学の進歩” 第 37 集, 日本糖尿病学会編. 診断と治療社, 東京, p1-6

- 3) Koczwara k, Bonifacio E, Ziegler A-G (2004) Transmission of maternal islet antibodies and risk of autoimmune diabetes in offspring of mothers with type 1 diabetes. Diabetes 53:1-4
- 4) Grodsky CM (2000) Kinetics of insulin secretion:Underlying metabolic events. In:Diabetes Mellitus. 2nd Edit LeRoith D, Talor SI, Olefsky JM (eds) Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, p-2-11

8. 原稿枚数、図（写真）、表

- 1) 和文要約、図（写真）、表、文献を含めた枚数は原則として投稿規定3頁の枚数以内とし、論文の英文抄録、速報、短報、編集者への手紙、コラム、ミニレビューは超過を認めない。図表の字数への換算は本誌および図（写真）、表の項を参考にされたい。
- 2) 英文抄録および「編集者への手紙」は、表題、所属、氏名を含めたものとする。
- 3) 表は別に添付し、本文中に図、表が挿入されるべき位置を明示しておく。また、データでの場合は、パワーポイント、ワード（ウインドウズ）等で作成され、そのまま使用できるものとする。
- 4) 図（写真）も別に添付し、そのまま使用できる明瞭、鮮明なものに限り、手札版以上の大きさとする。また、データで提出の場合は、パワーポイント（ウインドウズ）等を使用し、原則としてそのまま使用できるものとする。また、基本的にカラーは採用しない。著者の希望により特に大きな製版を使用した場合と、別にデータ作製を要した場合の実費は著者負担とする。
- 5) 図（写真）、表の文字および説明は英文とする。ただし、症例報告で英文抄録をつけない場合は和文でもよい。説明文は、別紙にダブルスペースでタイプする。
- 6) 手札型に焼き付けてあまり複雑ではなく1段以内（本文の間）に入る図の場合はほぼ400字に相当するが、図の説明（キャプション）の複雑なもの、小さい字を含むものは2段にまたがる場合が考えられ、その2～3倍の字数に相当した紙面を占めるので特に速報と短報の場合は枚数制限に注意すること。
- 7) 表は6) 基準の2～3倍、誌上の1頁を占める場合は原稿用紙4枚に相当する。
*パソコン等の場合はこの用紙でなくてもよく、全体で合致すればよい。

	400字詰原稿用紙*	図（写真）・表	和文要約	英文要約
原著	20枚以内（図・表、和文要約、文献を含める） 組み上げ4頁	5個以内小は0.5枚 大は1枚	400字以内	200語以内
症例報告	11枚以内（図・表、和文要約、文献を含める） 組み上げ2頁	5個以内小は0.5枚 大は1枚	400字以内	200語以内 (なくてもよい)
短報・報告	11枚以内（図・表、文献を含める） 組み上げ2頁	3個以内小は0.5枚 大は1枚	200字以内	200語以内
速報	5枚以内（図・表、文献を含める） 組み上げ1頁	2個以内小は0.5枚 大は1枚	200字以内	200語以内
編集者への手紙	3枚以内	—	—	—
ミニレビュー コラム	11枚以内（図・表、文献を含める） 組み上げ2頁	5個以内小は0.5枚 大は1枚	—	—

9. 校正

- 1) 著者の校正は一枚のみとし、以後は編集委員会において行う。また校正時の原稿の加筆、修正は誤字などのほかは認めない。
- 2) 正誤表は刷上りの論文が著者の校正と異なる場合にのみこれを作成する。

10. 推敲期間

論文の推敲期間は4カ月とし、それ以後に投稿された場合は新論文として扱う。

(以上は日本糖尿病学会「糖尿病」の投稿規定に準拠した。)

承諾確認書

日本先進糖尿病治療研究会雑誌に

(原著 症例報告 短報 報告 ミニレビュー コラム 委員会報告 その他)

「 _____ 」

を投稿し、掲載された論文の著作権はすべて日本先進糖尿病治療研究会に所属することとし、掲載した論文をオンライン化し、日本先進糖尿病治療研究会の採択するインターネットホームページ上に掲載することを承諾いたします。

なお、他誌に掲載または投稿中ではありません。

本件、投稿の症例報告と患者情報の記載のある論文については、匿名化をはかる等、患者のプライバシーに配慮し、投稿につき、インフォームドコンセントを得ております。

以上 事実を確認いたします。

平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

筆頭者氏名 (自署) _____

所属名 _____

上記の件につき、同意いたします。

共著者氏名 (自署) _____ (自署) _____

(自署) _____ (自署) _____

(自署) _____ (自署) _____

(自署) _____ (自署) _____

(自署) _____ (自署) _____

(自署) _____ (自署) _____

■世話人会

- 代表世話人
編集委員長 小林 哲郎 (山梨大学医学部 第三内科)
- 世話人
- 査読委員 雨宮 伸 (埼玉医科大学 小児科)
栗田 卓也 (埼玉医科大学 内分泌・糖尿病内科)
- 査読委員 石井 均 (天理よろづ相談所病院 内分泌内科)
今村 洋一 (東佐賀病院 糖尿病内科)
大磯ユタカ (名古屋大学大学院 医学系研究科 糖尿病科・内分泌内科学)
鴨井 久司 (長岡赤十字病院 糖尿病内分泌代謝センター)
- HP 委員 川村 智行 (大阪市立大学大学院 発達小児医学教室)
- HP 委員 黒田 暁生 (大阪大学医学部附属病院 内分泌代謝内科)
佐藤 譲 (岩手医科大学 糖尿病代謝内科)
- 査読委員 清水 一紀 (愛媛県立中央病院 糖尿病内分泌代謝内科)
津田 晶子 (木戸病院 内科)
豊田 長康 (鈴鹿医療科学大学)
西村 理明 (東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科)
丸山 太郎 (埼玉社会保険病院 内科)
百木 忠久 (小田原市立病院 糖尿病・内分泌内科)
- 査読委員 柳澤 克之 (市立札幌病院 内分泌代謝内科)
山田研太郎 (久留米大学医学部 内分泌代謝内科学)
- 事務局 長
編集副委員長 難波 光義 (兵庫医科大学 内科学糖尿病科)
- 顧問 野中 共平 (白石共立病院 名誉院長)

(五十音順)

■事務局

- 事務局 長 難波 光義 (兵庫医科大学 内科学糖尿病科)
- 所在地 兵庫医科大学 内科学糖尿病科 内
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1-1
TEL.0798-45-6592 FAX.0798-45-6593
E-mail namba-m@hyo-med.ac.jp

(2008年12月7日現在)